


第4回 旧検見川無線送信所の利活用に関する
ワークショップ等開催業務委託報告書

令和4年3月
千葉市



1. 現地見学会	3
2. ワークショップ	
概要	5
ワークショップ準備	6
ワークショップの事前説明	7
ワークショップ	
－Aグループ	8～9
－Bグループ	10～11
－Cグループ	12～13
－Dグループ	14～15
投票	16～17
3. 総括	19



1. 現地見学会



意見交換を活発にすることを目的として、旧検見川無線送信所（以下、「送信所」）の歴史説明や内部見学などを含めた現地見学会を開催。一回の定員を最大2名とし、15分以内で施設内を案内した。

見学ルートは1Fエントランスから2Fへ上がり、庶務課事務室、第一発振室、屋上へ上がるルートとした。

◆日程 ※（）は参加人数

・2/19（土）

①9:00～9:15(2名) ②9:30～9:45(1名) ③10:00～10:15(2名) ④10:30～10:45(2名) ⑤11:00～11:15(1名)

・2/20（日）

①9:00～9:15(2名) ②9:30～9:45(2名) ③10:00～10:15(1名)

計13名

◆新型コロナウイルス感染症対策

- ・マスクの着用
- ・入所前の検温
- ・手指のアルコール消毒
- ・説明は屋内の会話は必要最低限とし、入口手前と屋上を中心に実施
- ・1グループ最大参加人数を2名まで
- ・見学時間は1グループ15分程度





2. ワークショップ



ワークショップは、2022年2月26日（土）にオンラインで開催した。当日は、周辺地域の情報や文化財利活用事例を紹介するとともに、住民参加型ワークショップを行う意義などの事前説明を行った後、グループ単位でのディスカッションを50分×2回実施した。その後、各チームで議論した内容から欲しい機能を絞り、1グループ6つを目安に機能を発表し合った。最後に投票を行い、求める機能の優先順位を可視化し、総括ファシリテーターの山崎氏からの総評をもって閉会とした。

開始	終了	内容	担当
13:00	13:10	開会のあいさつ・イントロダクション	事務局
13:10	13:15	地元の名産、飲食店など商業店舗の紹介、送信所内の案内	事務局
13:15	13:18	検見川稲毛土地区画整理事業について	都市局
13:18	13:20	保存と活用する方法～これまでの意見を受けて	文化財課
13:20	13:30	住民参加型プロセスの価値について、イントロダクション	統括ファシリテーター
13:30	13:35	前回までのまとめ、本日のゴールについて	事務局
13:35	13:45	休憩	
13:45	14:35	ワークショップ1（50分）	事務局
14:35	14:45	休憩	
14:45	15:35	ワークショップ2（50分）	事務局
15:35	15:45	休憩	
15:45	16:05	各チームの統括した意見発表（1チームにつき5分）	事務局
16:05	16:10	投票の説明	事務局
16:10	16:25	全チーム意見への投票&集計（15分）	事務局
16:25	16:35	総評・まとめ・挨拶	統括ファシリテーター

当日は10代から80代までの合計25名がグループディスカッションに参加し、性別や年齢層などを踏まえ、以下の4グループに編成した。

Aグループ

60代：3名（全て男性）
50代：1名（男性）
30代：1名（女性）
20代：2名（男性1名女性1名）

計7名

Bグループ

80代：1名（男性）
50代：2名（全て男性）
30代：1名（男性）
20代：1名（男性）
10代：1名（女性）

計6名

Cグループ

70代：1名（男性）
50代：2名（全て男性）
40代：1名（女性）
20代：2名（男性1名女性1名）

計6名

Dグループ

70代：1名（男性）
60代：1名（男性）
50代：2名（男性1名女性1名）
30代：1名（男性）
20代：1名（女性）

計6名

ワークショップの事前説明

■開会のあいさつ・イントロダクション

神谷俊一千葉市長が、冒頭のあいさつにおいて送信所の価値等を説明し、今回のワークショップでの活発な意見交換への期待を述べた。

事務局からファシリテーターとプログラムの紹介を行い、進行イメージを共有した。

■検見川のまち紹介・施設の利活用事例

千葉市花見川区及び送信所が立地する検見川5丁目の人口傾向や町の魅力等に関するプレゼンテーションが行われ、まちとしての発展の潜在的な可能性が紹介された。

また、利活用のイメージを膨らませるため、文化財が宿泊施設やビジネスサロン等になった他都市の利活用事例などを取り上げた。

■土地区画整理事業・保存と活用する方法について

送信所周辺の土地利用計画について説明した。

また、前回までのワークショップで出されたアイデアを整理すると、指定文化財より規制が緩く改修などがしやすい登録文化財とし、民間事業者が運営する方法が考えられるとの説明を行った。

■住民参加型プロセスの価値について

統括ファシリテーターの山崎氏が、魅力的なまちの特徴や住民参加型まちづくりの重要性等に関するプレゼンテーションを行うとともに、立地条件や収益性等現実的な制約条件は考慮せず自由な発想で発言することや次世代を見据えながらワクワクしながら議論すること等、ワークショップでの意見交換が活性化することを解説した。

■前回までのまとめ・今回のゴールについて

第3回ワークショップで出されたアイデアの紹介と、ワークショップの最終目的である「自分たちが欲しい機能の優先順位を決める」ことを説明した。



登録文化財の利活用事例

1. EN

新たなランドマークで、歴史、自然、暮らし、そして人がつながる

元々の施設・・・竹田城跡の城下町にあった旧木村酒造
利活用の経緯と目的・・・建物の歴史性を尊重し、可能な限りそのままにリノベート。
人と人の縁を結ぶ場所になってほしいとの思いが込められている。
利活用後の運用方法・・・ホテル、レストラン、カフェ、マルシェ
所有者・・・朝来市



検見川稲毛土地区画整理事業について

【旧無線送信所周辺に整備される施設②（利便施設）】

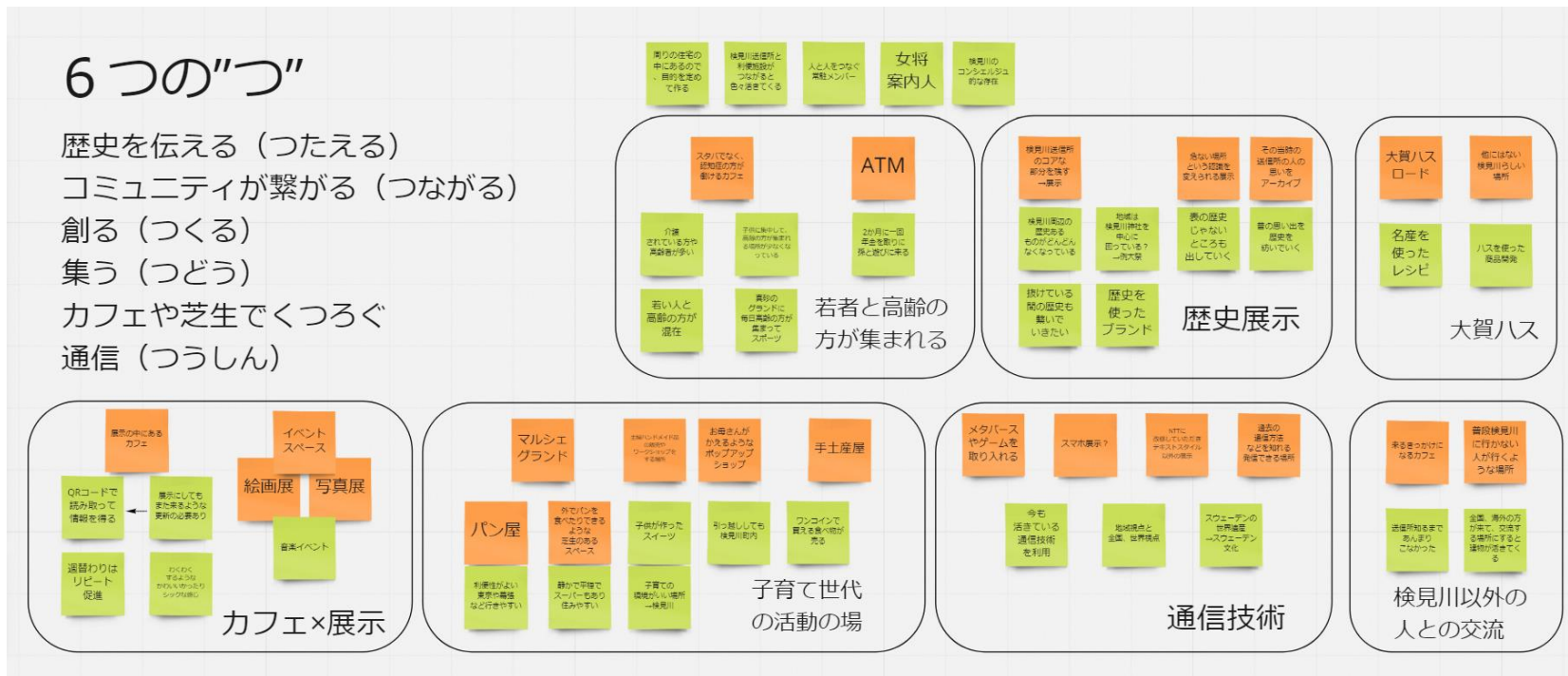


利活用アイデア

- ・ 女将、案内人、コンシェルジュを置く
- ・ 認知症の方が働けるカフェ
- ・ ATM
- ・ 送信所のコアな部分を残した展示
- ・ 危ない場所という認識を変える展示
- ・ 当時の送信所の人の思いをアーカイブにした展示
- ・ 二次元バーコードを活用した展示
- ・ メタバース、ゲーム空間
- ・ テキストスタイル以外の展示
- ・ 過去の通信方法を知れる展示
- ・ 展示の中のカフェ
- ・ イベントスペース
- ・ 絵画展、写真展、音楽イベント
- ・ マルシェグラント
- ・ 地元ブランド品の紹介、体験
- ・ パン屋
- ・ 芝生スペース
- ・ 子育て世代向けのポップアップショップ
- ・ 子育て世代がワークショップができる空間
- ・ 手土産屋
- ・ 来るきっかけになるカフェ
- ・ 普段検見川に行かない人が来る場所
- ・ 大賀ハスロード

最終提案アイデア

- ・ 生きた通信を体験学べる施設(メタバース、ゲーム等)
- ・ スウェーデン文化を楽しめる施設
- ・ 展示の中でくつろぐカフェ
- ・ 認知症の人たちが働けるカフェ
- ・ 子育て世代向けのものづくりや販売が出来るスペース
- ・ 地元ブランドを味わい体験できるスペース



ワークショップ総括

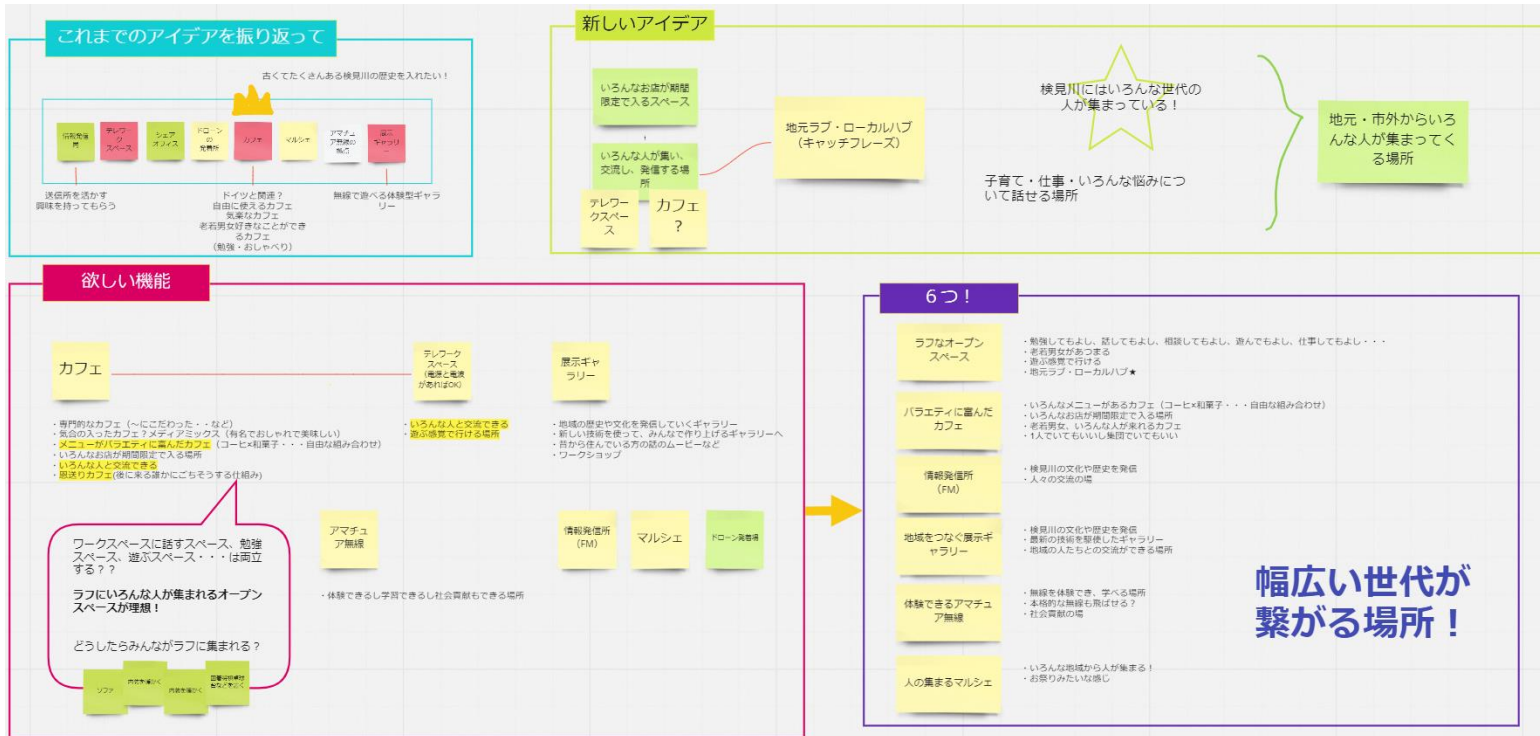
Aグループは、「子供から高齢者まで幅広い年代」「送信所や地域の歴史」という検見川の特徴に着目して議論が進められた。最終的には6つの“つ”にアイデアをまとめて発表を行った。若者と高齢者がWIN-WINな関係でお互いに楽しめる・交流できる場所を設けたいという思いから、“どんな人がいる空間なのか”に注目したアイデアが多く提案された。また歴史の伝承を行いながら、「メタバース空間」など未来の技術に向けた機能の提案も行われた。

利活用アイデア

- ・情報発信局
- ・テレワークスペース
- ・シェアオフィス
- ・ドローンの発着場
- ・カフェ
- ・マルシェ
- ・展示ギャラリー
- ・いろいろなお店が期間限定で入るスペース
- ・多様な人が集い、交流し、発信する場所
- ・地元ラブ・ローカルハブ
- ・地域外から人が集まる場所
- ・専門的なカフェ
- ・気合の入ったカフェ
- ・メディアミックス
- ・バラエティに富んだカフェ
- ・恩送りカフェ（後に来るだれかにごちそうする仕組み）
- ・ラフなオープンスペース
- ・遊び感覚で行ける場所
- ・アマチュア無線
- ・地域の歴史や文化を発信するギャラリー
- ・新技術を使ったギャラリー
- ・昔から住んでいる人の話やムービー

最終提案アイデア

- ・ラフなオープンスペース
- ・バラエティに富んだカフェ
- ・地域の情報発信所
- ・地域をつなぐ展示ギャラリー
- ・体験できるアマチュア無線
- ・いろいろな人の集まるマルシェ
- ・シェアオフィス・コワーキング



ワークショップ総括

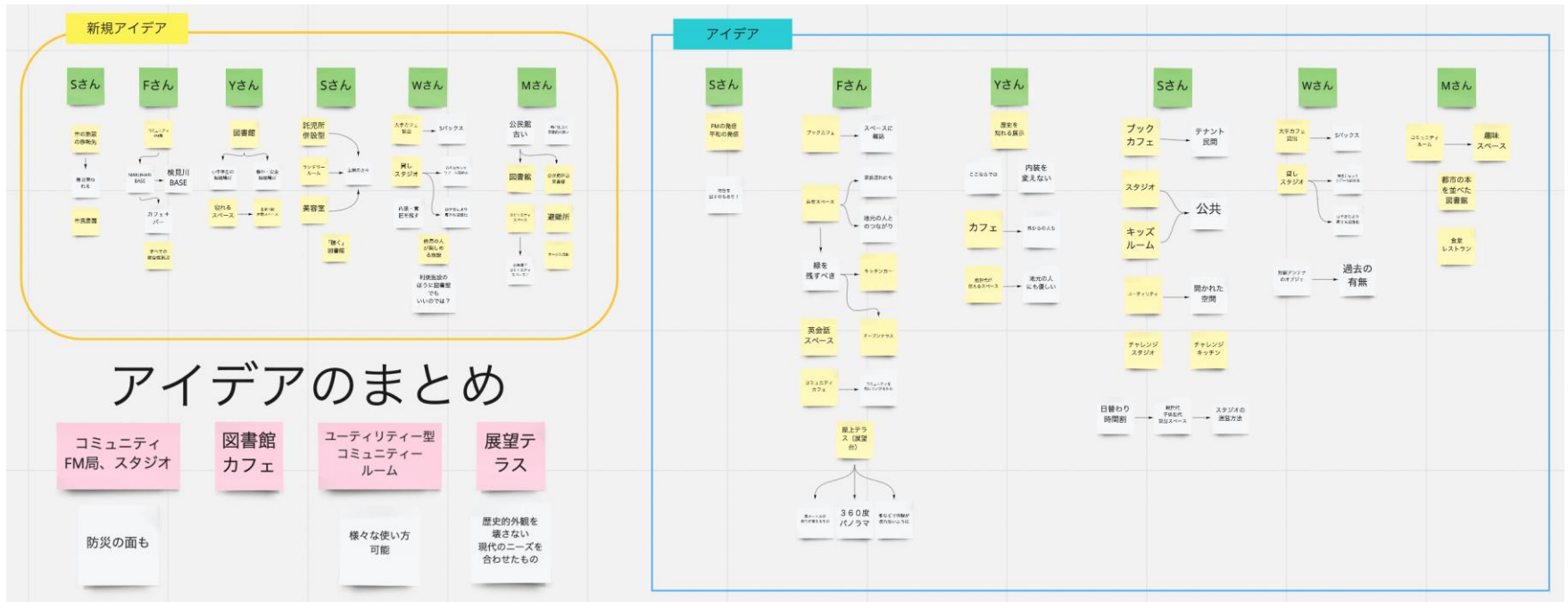
Bグループでは、様々な人々が集い交流できる空間を軸に、具体的なアイデアに向けて議論が進められた。多様な人が来やすい「ラフなオープンスペース」や、メニューや使い方の「バラエティに富んだカフェ」などが提案された。また送信所の歴史を引き継ぐため、情報発信の機能として、FM局や展示ギャラリースペースを持たせたいという意見に注目が集まった。また多くの人が集うきっかけとなるマルシェを通じて、大小様々な祭りを定期的に行うという意見も提案された。

利活用アイデア

- ・市の施設の移転先
- ・市民農園
- ・コミュニティFM局
- ・検見川BASE
- ・カフェ+バー
- ・全ての複合施設
- ・図書館、都市の本
- ・休憩、寝れるスペース
- ・託児所、併設型
- ・ランドリールーム
- ・美容室
- ・「聴く」図書館
- ・大手カフェ貸出し
- ・貸しスタジオ
- ・他県の人を楽しめる施設
- ・公民館併設図書館
- ・コミュニティスペース、趣味スペース
- ・避難所
- ・サークル活動
- ・ブックカフェ
- ・キッチンカー、食堂、レストラン
- ・オープンテラス、屋上テラス
- ・歴史を知れる展示
- ・キッズルーム
- ・チャレンジスタジオ、チャレンジキッチン

最終提案アイデア

- ・コミュニティFM局
- ・ブックカフェ
- ・（ユーティリティ型）多目的スペース
- ・展望テラス



ワークショップ総括

Cグループでは、「コミュニティFM局」や「コミュニティスペース」、「ブックカフェ」など、ライフスタイルや世代を超えた交流が生まれる場にしようという意見に注目が集まった。また交流できる空間に加えて、多様な使い方が可能な「ユーティリティ型コミュニティルーム」を設け、英会話スペースやキッチンカーなどの利用が提案された。また「展望テラス」を設けることで、送信所の外観を保存し、歴史的な価値を残すことを目指す方向でまとまった。

利活用アイデア

- ・ 学び→放送可→子供との交流
- ・ 道の駅、スーパー、商業的な場所に
- ・ 屋上へ直接アクセスできる
- ・ 歴史的価値の発信、地域ではなく世界へ発信
- ・ 博物館的保存（写真、VR）
- ・ 自家発電をする避難所、電気を学べる場所
- ・ 戦争の歴史を発信（軍都千葉）
- ・ 子どもが発信、交流するラジオ局
- ・ ハスの発信所
- ・ 生活に密接なスーパー
- ・ 保育所・託児所
- ・ ニューカマーにむけた場所
- ・ 蔦屋（ブックカフェ）
- ・ 無線に特化した勉強会
- ・ サバゲー
- ・ 発表する場
- ・ 子どもが放課後安全な場所（学童）
- ・ コミュニティスペース
- ・ 大学と提携した施設
- ・ 大賀ハスの歴史伝承
- ・ ギャラリー、多目的スペース
- ・ 景観を意識した小規模スーパー

最終提案アイデア

- ・ 資料館＋カルチャースペース
- ・ 実用性のある小規模スーパー
- ・ ブックカフェ
- ・ FM局＋コミュニティスペース
- ・ 多目的スペース

アイデア	柏の葉T-site	子どもが発信するラジオ局	保育所・託児所 ニューカマーにむけた場所	放送局 ブックカフェ（シリウス）
学び→放送→子供との交流		子どもと交流できる放送局	真屋（ブックカフェ） 無縁に特化した勉強会 サブゲー	大学と提携した施設
道の駅、スーパー、商業的な場所に まよいすけっとのような気軽なスーパー		世界へ発信できる放送局	電気を0から学び体験可能な施設 送信所から発展した学び舎	子どもだけではなく子どももできる というニュアンス
屋上へ直接アクセスできる （屋上生活をしたい）		自家発電をする避難所	発表する場 ラジオ、地域の人がなんでも発信できる	
歴史的価値の発信、地域ではなく世界へ発信 博物館的保存（写真、VR） ハスの種を広めていきたい。		電気（通信）を学べる資料館	子どもが放課後安全な場所（学童）	
ソーラーもせて、自家発電すれば避難所としての機能 電気を学べる場所にする		戦争に関する歴史的資料館	若男女問わず交流できるコミュニティス ペース	
戦争の歴史を発信（軍都千葉）		ハスの発信所		
		生活に密着なスーパー		



アイデアの絞り込み
<ul style="list-style-type: none"> ・大賀ハスの歴史伝承 ・歴史的価値の継承、送信所の建物、国際送信 ・電気通信、歴史の学びの場 ・景観を意識した小規模スーパー ・コミュニティスペースや展示スペース併設のTsite的な施設 ・日本一通信技術について学べる 蔦屋書店(通信技術のコーナーあつめ)、ラジオ局も併設し体験もできる ・情報発信、コミュニティFM,インターネットラジオ、ポッドキャスト ・ブックカフェ ・子育て世代をターゲットにしたブックカフェ。 ・キッズスペースも広く、地域住民との交流の場もあり、絵本や紙芝居の読み手は地域方のボランティアが行う ・ギャラリー、多目的スペース ・自家発電の避難所

★Dグループ まとめ★

★「歴史の伝承(資料館)+学びの場」

- ・大賀ハスの歴史伝承
- ・歴史的価値の継承、送信所の建物、国際送信
- ・電気通信、歴史の学びの場

★景観を意識した小規模スーパー

★ブックカフェ

★ラジオ局+コミュニティスペース

- ・コミュニティスペースや展示スペース併設のTsite的な施設
- ・日本一通信技術について学べる 蔦屋書店(通信技術のコーナーあつめ)、ラジオ局も併設し体験もできる
- ・情報発信、コミュニティFM,インターネットラジオ、ポッドキャスト
- ・ブックカフェ
- ・子育て世代をターゲットにしたブックカフェ。

★多目的スペース

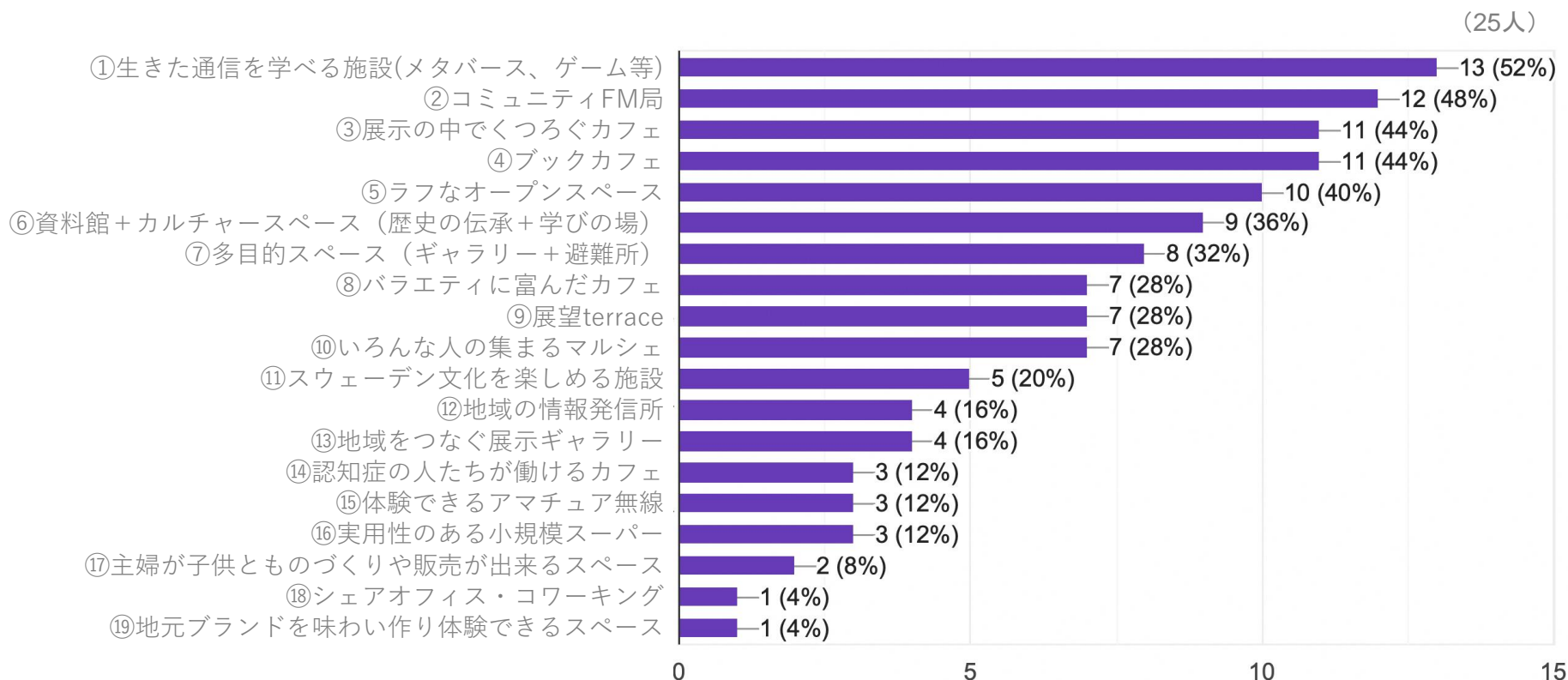
- ・ギャラリー、多目的スペース
- ・自家発電の避難所

ワークショップ総括

Dグループでは、送信所や地域の歴史と、多様な人々が集い、交流できる空間に着目して議論が進められた。それに伴い、歴史的な価値の保存と伝承に加えて、歴史を学べる空間として「資料館+学びの場」が提案された。また人々が集う空間として「小規模スーパー」や「ブックカフェ」、「多目的スペース」などが提案された。さらに空間のイメージとして柏の葉T-siteを参考としつつ、検見川らしさを空間に取り入れるという意見でまとまった。

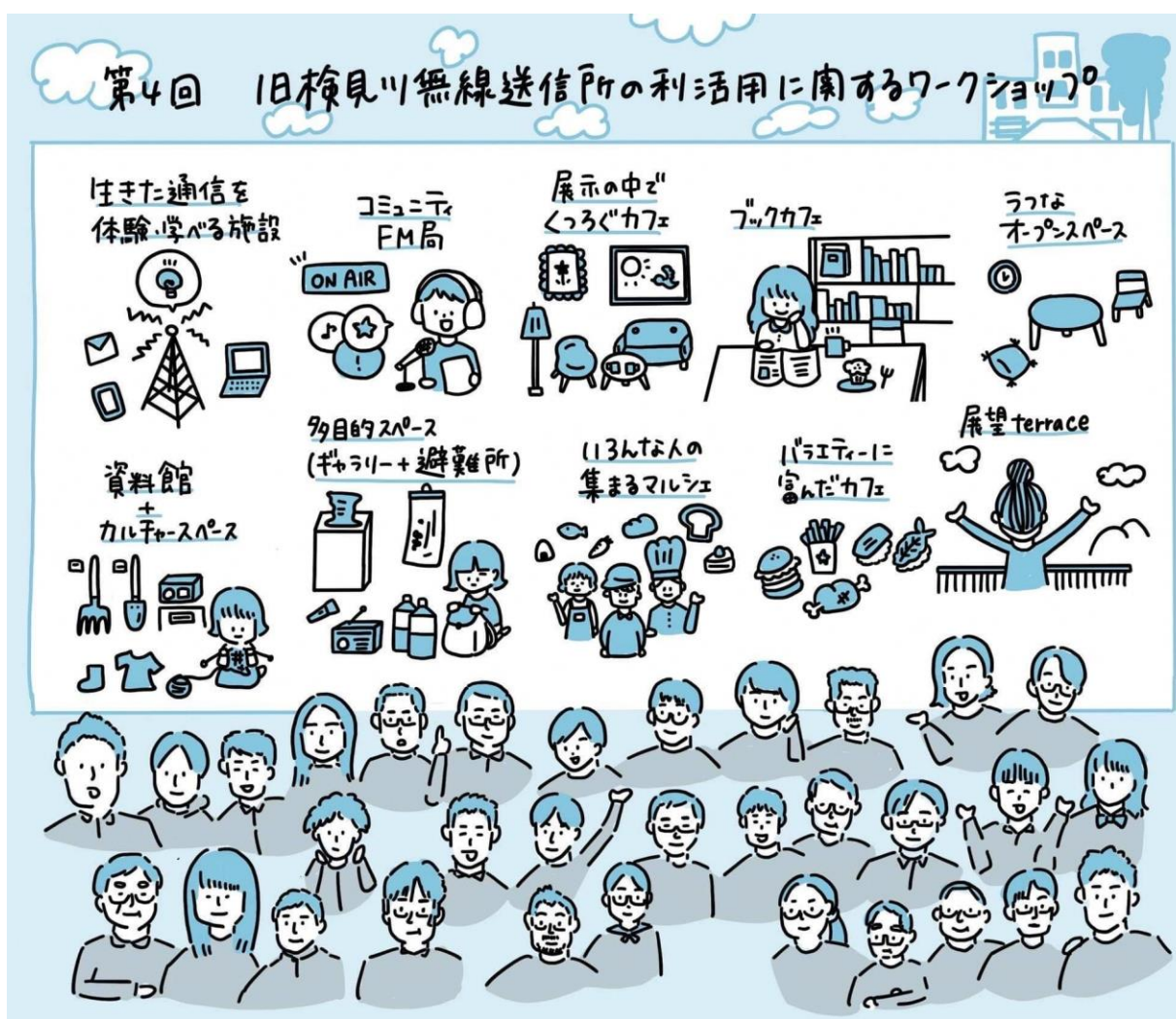
投票

全グループの発表から類似した機能をまとめ、全部で19の機能から投票を行った。投票方法としては、一人最大5つの機能まで選択可能とした。投票・集計はGoogleフォームを用いて行った。



投票上位10個の機能

- ① 生きた通信を学べる施設
(メタバース、ゲーム等)
- ② コミュニティFM局
- ③ 展示の中でくつろぐカフェ
- ④ ブックカフェ
- ⑤ ラフなオープンスペース
- ⑥ 資料館+カルチャースペース
(歴史の伝承+学びの場)
- ⑦ 多目的スペース
(ギャラリー+避難所)
- ⑧ バラエティに富んだカフェ
- ⑨ 展望terrace
- ⑩ いろいろな人の集まるマルシェ



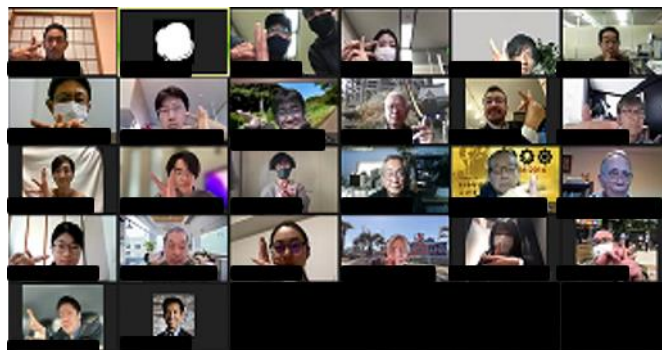


3. 総括



今回のワークショップでは、全グループにおいて「旧検見川無線送信所の歴史的価値を残したり、送信所の通信機能にちなみ通信に関わる機能をもたせながら、多様な人々のためになる機能をもって建物を利活用したい」という思いから、具体的なアイデアが多く提案された。投票を行うことで、欲しい機能の優先順位を可視化することができた。総括ファシリテーター山崎氏の総評は以下のとおり。

- ・投票を行ったことで実際に何がどの程度人気があるのかが明確になった。
- ・送信所の歴史や地域への思いの強さが確認された。
- ・カフェやオープンスペースは、ここでは人々の関係を作る場と位置付けられており、「世代や職種を超えて繋がりたい」という欲求の現れだと感じられた。
- ・尖っていて面白いと感じたのはFMラジオ（情報の発信）。地域のことをみんなが理解したいと思っている。またコロナ禍において、ラジオやアマチュア無線が徐々に人気を盛り返しているということを知り勉強になった。段々と方向性が定まってきていると感じている。
- ・投票結果の全てが反映されるわけではないが、今回のWSを元に基本的な計画と方向性を考えていかなければならない。皆さんのワークショップが今後のプロセスの土台となって作られていく。
- ・このWSが市の検討の基礎となる。人々が集まり話し合ったアイデアを元に、次のステージを作っていかなければならないということで、すごくいい材料ができたと思う。



第4回 旧検見川無線送信所の利活用に関する
ワークショップ等開催業務委託報告書

令和4年3月発行

発行 千葉市教育委員会事務局
生涯学習部文化財課
千葉県千葉市中央区問屋町1-35
ポートサイドタワー11階

編集 株式会社拓匠開発
千葉県千葉市中央区弁天2-20-20